

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

平成31年4月10日（水）

2 確認箇所

1号機原子炉建屋上部（遠隔操作室、1／2号機開閉所前において確認）

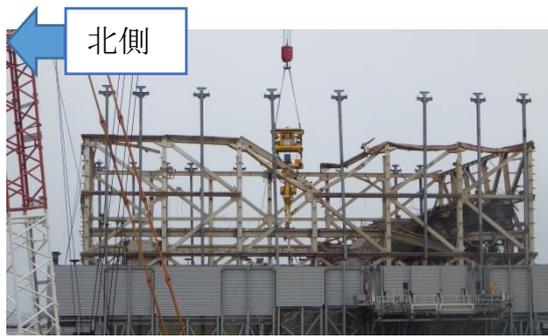
3 確認項目

1号機原子炉建屋ガレキ撤去の状況（北側ガレキ撤去、使用済燃料プール周辺の小ガレキ撤去、機器ハッチ養生設置）

4 確認結果の概要

1号機原子炉建屋のオペレーティングフロア（以下、「オペフロ」という。）では、事故当時の水素爆発により屋根が南北につながった状態で崩落したが、使用済燃料プールのある南側へ影響が及ばないようにするための屋根鉄骨の分断が2月22日に終了した。さらに、使用済燃料プール養生設置に向けてアクセスルートを確保するため、機器ハッチ開口部の養生設置が3月6日に終了し、使用済燃料プール周辺の小ガレキ撤去作業が3月18日から開始されていることから、進捗状況及びダストの飛散防止対策を確認した。（前回確認：[平成31年2月6日](#)、[同1月29日](#)）

- ・東京電力によると、今年度のガレキ撤去は、中央と南側エリアを重点的に行う計画であり、クローラクレーンに装着したペンチや吸引装置による崩落屋根の撤去と、崩落屋根下で行う遠隔操作重機による使用済燃料プール周辺の小ガレキ撤去を並行して進めていく。（写真1）
- ・使用済燃料プール周辺の小ガレキ撤去に伴うダスト飛散防止対策は、これまでのミスト散水設備やクローラクレーンによる飛散防止剤散布装置に加え、崩落屋根下に移動式の散水装置を設置し、作業に応じて水を散布する。さらに、一日の作業終了後には、自走式の飛散防止剤散布装置によりオペフロ上に薬剤を散布する。
- ・ダスト濃度の監視は、オペフロの四隅（南側は高さ2段階）の6点で行っており、これまでに異常な値は観測されていない。
- ・本日は、東側作業台から使用済燃料プール周辺に投入した遠隔操作重機を使用して集めた小ガレキを、クローラクレーンに装着した吸引装置で回収する作業が行われていた。（写真2）



(写真1) 1号機原子炉建屋上部の状況 (装置：ペンチ)



(写真2) 吸引装置

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。